

<単元・題材名等>

器械運動「跳び箱運動（伸膝台上前転）」

・ Windows タブレット

・ カメラ機能（動画）

ねらい

強く踏み切った後に、膝の伸びた「への字」姿勢で着手し、「への字」姿勢を保って大きく回転する伸膝台上前転ができる。

主なICTの活用法

・ タブレットのカメラ機能（動画）を活用し、目指す動きと自分の動きの動画を見比べたり、仲間同士で動きを撮影し合って必要なタイミングでスロー再生や停止しながら動きを確認したりする。

ICTを通じて育成する資質・能力

・ 仲間と動きを客観的に見合い、自己の技能段階と個人課題を明らかにして練習方法を意図的に選択したり、自己や仲間の考えたことを伝え合ったりすることができる。

実践の概要

本単元では、「伸膝台上前転」を扱う。児童は、第3学年までに、マット運動「前転」や跳び箱運動「台上前転」を学習してきた。それらの学習を生かし、より腰を大きく開くと共に膝を伸ばした「への字姿勢」を保って回転する動きを仲間と共に試行錯誤しながら身に付けていく。タブレットのカメラ機能（動画）を効果的に活用し、既習である回転系の技における技術ポイントと関連付けて新たな技術ポイントに気づき、課題解決ができるようにする。

児童の学びの様子

- 導入では、目指す動きと前時までの自分の動きを見比べ、個人課題を明らかにすることができた。また、ペアで課題解決に向けた練習方法を交流し、見通しをもって歩み出すことができた。
- 展開では、ペアやグループで共有した互いの課題を踏まえて必要に応じて動画を撮影して動きを見合ったり、アドバイスし合ったりしたことで、練習方法を意図的に選択することができた。
- 終末では、撮影した動画をもとに振り返りを行ったことで、動きの高まりと練習方法の有用性を実感できた。



指導のポイント

- 練習前に、仲間同士でお互いの課題と本時の練習計画を共有する場を設定する。
- ペアやグループで意識することを仲間に伝えてから交互に運動し、運動後はどうだったかできばえを確認し合うことができるようにする。
- 動きを常に「全体」と「部分・部位」の2つの視点で見ることが大切にし、一人一人の課題及び課題解決の方法が明確になるようにする。
- 子どもたちの動きの段階に合わせて、特設コーナーを設定したり、教具を工夫したりする。
- 練習後に、仲間同士でお互いの成果と次時の練習計画を共有する場を設定する。